37. 下顎逆生埋伏智歯の1例

南部　聡[1)] 窪田正樹[1)] 増崎雅一[1)]
九津見雅之[1)] 本橋雪子[1)] 柴田敏之[1)]
有末　眞[1)] 村瀬博文[1)] 斉藤基明[1)]
道谷弘之[2)] 金澤正昭[2)] 金子昌幸[3)]
（口腔外科II[1)] 口腔外科I[2)] 歯科放射線[3)]）

下顎智歯は，その萌出位置の解剖学的構造から萌出異常を生じやすく，智歯周囲炎をはじめとして種々の障害を誘発することが多いといわれています。今回我々は，下顎骨左側に見られた逆生埋伏智歯の1例を経験しましたので，その概要，ならびに本学臨床実習生209例を対象として下顎逆生埋伏智歯の頻度，および萌出余地との関連について検討し若干の考察を加え報告致します。

患者：18歳，男性　**主訴**：咬合痛

初診：平成3年4月18日

口腔外所見：特記すべき事項なし

口腔内所見：左側下顎第2大臼歯遠心部は健康歯肉により被覆されており，その他口腔内には特に異常はみられませんでした。

X線所見：オルソパントモ写真では下顎左側第2大臼歯の遠心に，咬合面を下方に向けた埋伏智歯がみられます。

臨床診断：左下顎逆生埋伏智歯

処置：全身麻酔下にて多数歯の齲蝕処置終了後，左下顎逆生埋伏智歯の抜歯を行いました。埋伏智歯は，下顎骨の頰側にあり，完全に骨内に埋伏し，歯冠をやや頰側方向に，根尖を舌側方向に向けておりました。

摘出物所見：歯牙の長径は15mm，歯冠幅径は9mmで，根尖部のわずかな湾曲を認めました。

考察：頻度及び萌出余地との関連について検討する目的で，平成1年から平成2年の本学臨床実習生，209例の下顎智歯のX線写真を用い，頻度については河本らの分類，智歯の萌出余地については下顎第2大臼歯と下顎枝の前縁との関係にもとづいてクラス1，2，3に分類し検索しました。今回検索した下顎智歯209例中逆生埋伏歯は19例，9.0%で，河本，西島らの報告に比べやや高い値であり，また，萌出余地との関係は余地の減少につれて逆生の比率が増加しておりました。しかし，本症例のように歯軸傾斜角度が160度と高度の逆生をしめしたものは検索中には認められず余地についてはクラス1でした。